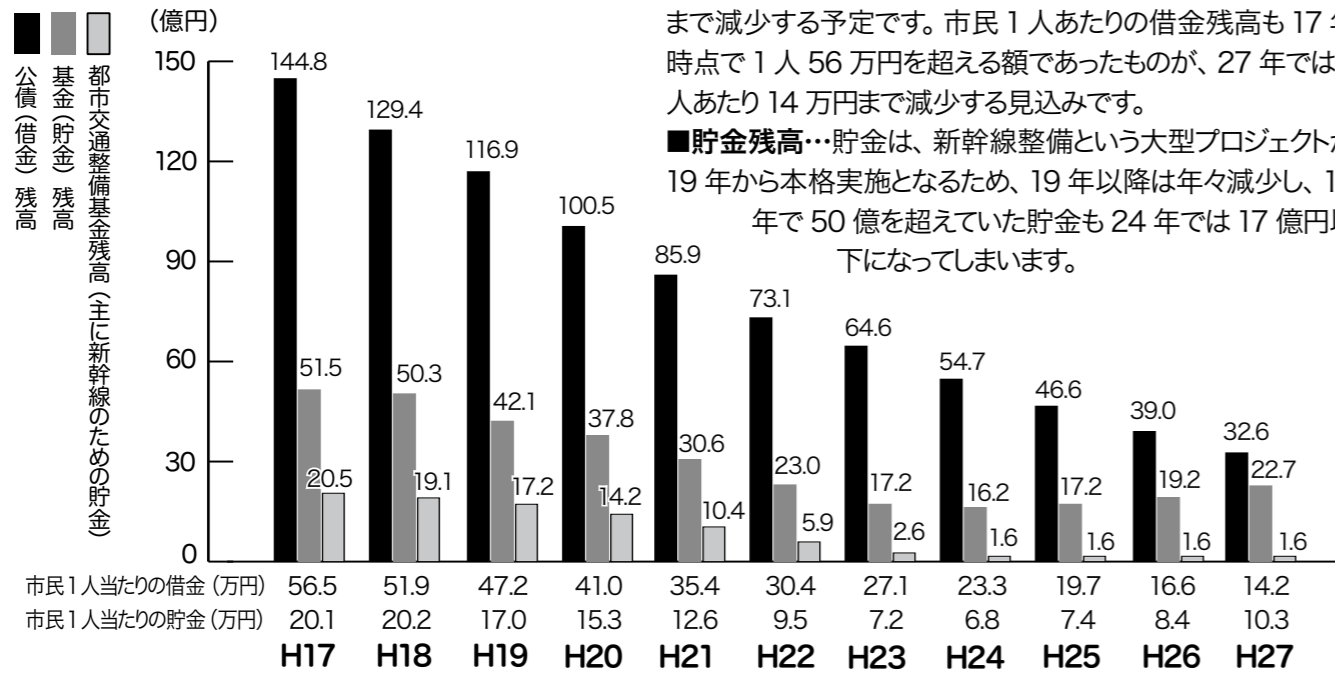


借金残高・貯金残高の推移

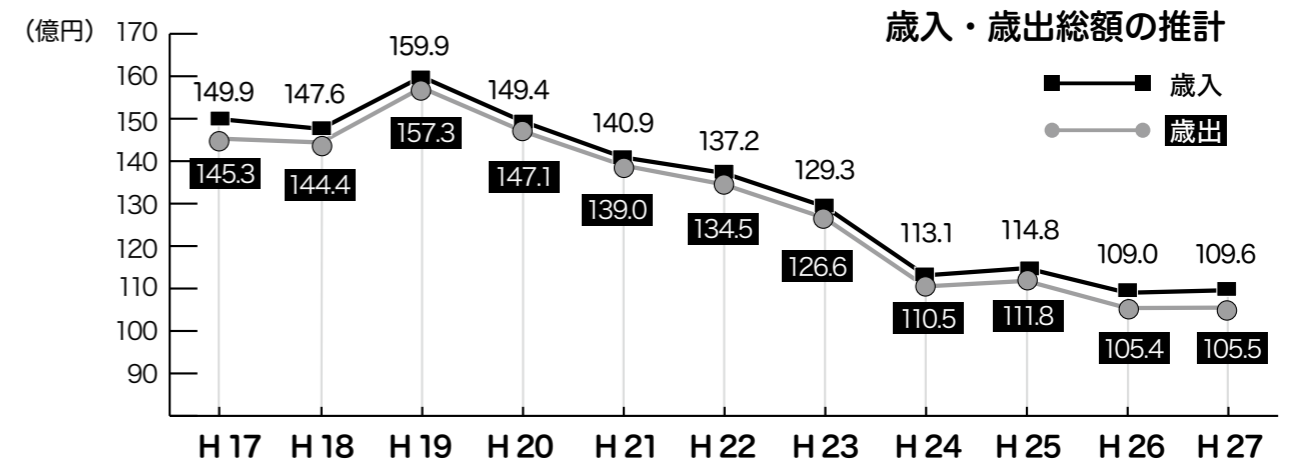
■**借金残高**…17 年では約 145 億円ある借金残高は加速度的に減少し、27 年には 33 億円を下回り、17 年の 1/4 以下まで減少する予定です。市民 1 人あたりの借金残高も 17 年時点で 1 人 56 万円を超える額であったものが、27 年では 1 人あたり 14 万円まで減少する見込みです。

■**貯金残高**…貯金は、新幹線整備という大型プロジェクトが 19 年から本格実施となるため、19 年以降は年々減少し、17 年で 50 億を超えていた貯金も 24 年では 17 億円以下になってしまいます。



歳入・歳出総額

歳入・歳出総額は平成 17 年を基礎として、基本的には減少していくものと想定しています。ただし新幹線関連経費等で 19 年は伸びますが、27 年では 110 億円を下回り、17 年の 3/4 程度の規模となる見込みです。



歳入・歳出総額の推計

実質公債費比率の推移

実質公債費比率 (3カ年平均) (%)

年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
実質公債費比率 (%)	19.4	20.8	20.4	19.9	18.6	16.7	15.2	14.1

将来的な市の債務を見る実質公債費比率の推計は、17 年では 19.4%と、18%を超える状況となりました。これは、下水道特別会計に対する借金への繰り出しが多額であることが主な要因です。

18 年までは上昇しますが、19 年以降は減少に転じます。H22 以降は 18%以下となり健全債務が見込まれます。

実質公債費比率とは

市の借金や負担金など将来にわたり支出が予想される債務を、普通交付税と標準税収入を足したもので割った、収入における純粋な市の債務の割合です。18%を超えると起債に許可が必要となるため、18%がボーダーラインとなります。(数値が低いほど健全)

り推計 (社会人口研究所：小地域簡易将来人口推計から)
 ⑤支出は、経常的な経費は過去の実績等から推計し、事業費は各課等からの事業計画の積み上げにより推計。なお特別会計への繰り出し (普通会計の会計を除く)・岳北広域行政組合への負担金は、別途計算し積み上げた

最後に
健全な財政運営堅持で自立し発展する飯山市を目指します

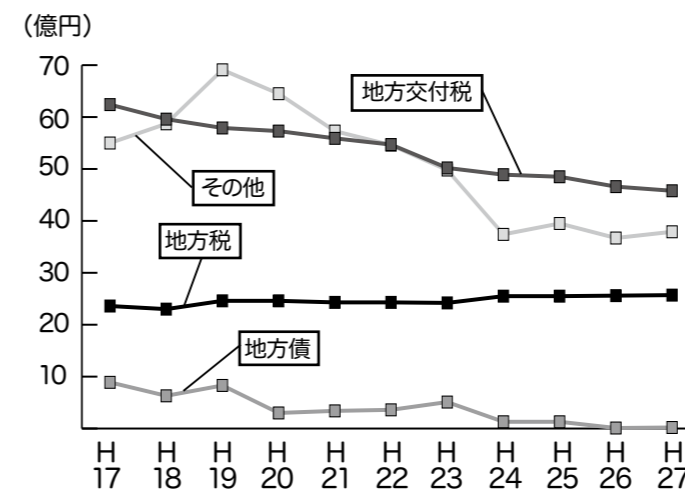
三位一体改革・人口減少・新幹線整備等、飯山市の財政をとりまく環境は大変厳しい状況ですが、「第三次行財政改革」「飯山市自立計画」の推進を行い、経常経費の減少および、協働あるいは選択と集中により一般事業費の抑制を行うことで、自由に使える貯金が 10 億円を下回らない程度の財政運営が可能の見込みとなりました。

今後、国の情勢・市をとりまく環境等により推計根拠が変更しますので、毎年度見直しをしながら長期的な財政推計に基づいた健全な財政運営を実施していきます。市民の皆さんのご理解、ご協力をお願いいたします。

推計にあたっての前提条件

- ① H17 は決算値、H18 から H27 は決算見込み
- ② 国の「三位一体改革」「2006 基本方針 (骨太の方針)」等、現段階で把握できる情報に基づき推計
- ③ 飯山市の「第三次行財政改革」「飯山市自立計画」を反映
- ④ 人口推計は 17 年国勢調査速報値を基本に、5 年毎の変化によ

歳入の内訳



■**地方税**…18 年で 23 億円まで下がる予定ですが、19 年からの税源移譲により 24 億円台となり、新幹線効果により 25 年には 25 億円台まで回復する見込みです。

■**地方交付税**…起債償還の減、および人口減に比例して大幅な減少が見込まれます。17 年で 62 億円台が 27 年では 45 億円台と 17 年の 73%程度の規模まで縮小する予定です。

■**地方債**…19 年までは、臨時財政対策債等も含めて 8 億円前後の借入をしますが、20 年以降は極力借金を減らし、26 年からは、ほぼ借り入れ無しとなる予定です。

歳出の内訳

■**普通建設事業費**…新幹線整備と並行して上下し、19 年では 22 億円を超える事業費も、24 年からは 10 億円以下になる予定です。新幹線以外の大きな事業としては、総合福祉センター整備、市営住宅整備・学校整備 (耐震含む)などを予定しています。

■**人件費**…19 年以降は 20 億円を上回らない規模で推移するものと予測しています。「第三次行財政改革」「自立計画」により 21 年度末で職員 250 人として推計しました。(現在 269 人)

■**繰り出し**…19 年までは下水道関連の繰り出しにより伸びますが、20 年以降は減少に転じ、27 年では約 16 億円と、3 億円減少すると推計しました。

■**公債費**…借入の減少に伴い、借金返済も大幅に減少していきます。17 年の 26 億円が 27 年では 7 億円台まで下がる予定です。

